

(書式6)

## 意見公募によって提出いただいた意見及び反映結果

施策案の名称	取手駅西口A街区再開発ビル内複合公共施設整備事業 基本構想(案)	
意見募集期間	令和7年10月12日から令和7年11月11日まで	
意見提出者数	7人	
提出意見数	19件	
意見項目数	19件	
意見提出の内訳	直接窓口へ持参	人 件
	郵送	人 件
	ファクス	人 件
	電子メール	7人 19件
意見の反映結果	A 案に反映させたもの(反映・修正箇所がわかるものを添付)	件
	B 意見の趣旨が既に案に盛り込まれているもの	件
	C 今後の取り組みにおいて参考にするもの	8件
	D 案に反映できないもの	11件
	E その他(感想・賛否のみなど)	件
匿名等による意見提出者数	人	

※意見公募は政策等の賛否を問うものではありません。有用な意見を政策等に反映させるため、意見の内容に着目し、これを考慮した市(実施機関)の考え方を掲載しています。

※類似の意見に対しては、まとめて市(実施機関)の考え方を掲載したものがある場合は、意見項目数と一致しません。

※詳細は別紙のとおり。

## 提出された意見と市の考え方

番号	該当ページ	意見	市（実施機関）の考え方	反映区分
1		<p>西口開発におきまして高齢者の方々、親子の方々が憩いの場として利用できるスパ施設、購買施設(スーパータイヨウや、ドンキホーテ)、飲食店(うどん屋、回転すし)、など常磐線始発駅でもある駅周辺において少ない施設を作ってほしいです…取手のアトリエ施設をインスタ映えさせてもいいかもです。</p>	<p>本複合公共施設は、取手駅西口A街区地区の権利者（再開発準備組合）が建設を予定している再開発ビルの一部の床を活用して整備する施設となっております。</p> <p>再開発ビルへの商業施設などのテナント誘致に関しましては、再開発準備組合によって検討されているため、いただいたご意見につきましては、再開発準備組合に共有させていただきます。</p>	C
2		<p>苦い教訓を忘れてはいないか。1985年、A街区のそばに約103億円を投じた再開発事業で8階建てのビルを建設し、ここに入った「取手とうきゅう」が2010年には撤退し、いまもって6～8階は空き家のままだ。この時の再開発事業の総括をきちんとしたのか？ その反省もないままに、今回も、駅前に賑わいを生み出すための名目で再開発事業をすすめるようとしているが、再開発事業計画は杜撰で、目的達成は甚だ疑問だ。将来に大きな禍根を残すのではないかと心配する。</p> <p>今回の計画で市は補助金と保留床購入を含め約80億円もの投資を予定しているようだが、市民の福祉向上のための施策の財源が縮減されることは目に見えている。</p> <p>取手図書館を廃して駅前の複合施設の中に移転するとのこの計画は、図書館を駅前の賑わいを生み出すための手段とする思い付きで単純な発想である。市民のためにどんな図書館を作るのがよいのか、図書館の本館・分館・公民館図書室などネットワークをどう作るのがよいのか等々十分に検討する必要があるのではないか。市民の意見を聞き、十分な検討を踏まえたものではなく、開発推進サイドの基本構想、基本計画づくりであって、教育委員会や図書館協議会、社会教育委員会議での専門的な検討もされていない。</p> <p>以上の趣旨から、この計画の撤回を求めるものです。</p>	<p>A街区において再開発事業を実施することは、駅周辺が活力と魅力のあるエリアになることが期待され、市にとっても大きな意義があると考えております。</p> <p>本基本構想（案）の策定にあたりましては、教育行政を行う教育委員会の専門的な見地からの意見を聴取・反映しつつ慎重に検討を進めてまいりました。</p> <p>複合公共施設における施設機能等の具体的な検討につきましては、今後予定している複合公共施設整備に関する基本計画策定時に行うこととなります。基本計画策定時には、市民アンケートやワークショップなど、市民の皆さんのご意見を伺い、教育委員会などの関係機関と引き続き協議しながら、より良い施設となるよう検討してまいります。</p> <p>公共施設は、長きにわたって市民の皆さんに使っていただく施設になりますので、市民の皆さんのご意見をしっかりと伺い、取り入れながら、より良い施設となるよう引き続き検討してまいります。</p>	D

3	P25	<p>(取手駅前図書館について)</p> <p>今後の基本計画策定に向け、基本構想で検討事項として触れておいてはどうか、と考える点を以下にお示します。</p> <p>第3章 A街区再開発ビル内 複合公共施設整備方針</p> <p>P25 1. 整備方針 (3) A街区再開発ビル内複合公共施設のキャッチコピー</p> <p>キャッチコピーに込められた意味合い・想いを、市民に広く知っていただくための仕掛けがあると良いのではないのでしょうか。</p> <p>① 施設の愛称とロゴマーク等の公募の実施。</p> <p>開館への気運を盛り上げ、市民に愛着を持ってもらえるよう、御殿場図書館の「ほんてらす」泉大津図書館の「シーブラ」のような愛称を一般から、また芸大生・市内高校生などからロゴマークを、市民投票で選ぶコンテスト形式で公募してはどうか。</p>	<p>複合公共施設における施設機能などの具体的な検討につきましては、今後予定している複合公共施設整備に関する基本計画策定時に行うこととなります。</p> <p>キャッチコピーや施設の愛称・ロゴマーク等に関しましては、具体的な施設計画などが定まった段階で、いただいたご意見を参考に実施に関する検討をまいります。</p>	C
4	P30	<p>P30～3. 機能配置の考え方</p> <p>多層階なので独立性を確保したゾーニングが可能ですが、各フロア面積が限られており、スペースの効率的活用が必要になると思います。その対応も含め、これを機に図書館全体の機能・組織の再編も課題として挙げてはどうか。</p> <p>①中央図書館的機能をふじしろ図書館へ移行することを検討する。</p> <p>駅前図書館を指定管理とする場合、組織上は拠点館に位置づけた方が業務区分を明確にできる。</p> <p>また、ふじしろ図書館は教育委員会と近接しており、会議や事務処理等による移動時間の短縮・効率化を図れるほか、駅前図書館のバックヤードスペースの節減が可能となる。</p>	<p>図書館機能の配置の考え方や組織に関することにつきましては、基本計画策定時におきまして検討いたします。検討にあたってはいただいたご意見を参考にさせていただきながら、また、教育委員会をはじめとした庁内関係部署と調整しながら進めてまいります。</p>	C
5	P10	<p>「取手駅西口A街区再開発ビル内複合公共施設整備事業 基本構想 (案)」に対する意見</p> <p>駅前に「送迎保育ステーション」の設置を希望します。</p> <p>流山市の「おおたかの森送迎保育ステーション」のように、駅前で子どもを預けられ、市内各地の保育園に送迎してくれる施設をぜひ取手駅前にも整備してほしいです。</p> <p>共働き世帯が増えている中、朝の登園と通勤を両立させるのは大きな負担で</p>	<p>複合公共施設の機能の考え方は、取手駅西口地区に不足している機能を抽出して、不足機能を充足する施設を整備するというものです。</p> <p>取手駅西口地区には取手ウェルネスプラザのキッズプレイルームや、取手iセンターの認定こども園が配置されていることから、子育て支援機能は一定程度整備されております。</p> <p>また、令和8年4月には、リボンとりでに民間保育園が開園し、通常保育の他、一時保育、病児保育、子育て</p>	D

		<p>す。駅前子どもを預けることができれば、電車通勤との両立がしやすくなり、子育て支援として非常に効果的だと思います。</p> <p>また、保育園から戻ってきた後も、短時間子どもを預けられる「一時保育的な機能」もあるとさらに助かります。</p> <p>流山市の事例のように、このような送迎保育ステーションを市内保育施設のハブ機能として整備することで、子育て世代の利便性は格段に向上すると思います。ぜひ導入をご検討ください。</p>	<p>て支援センターなどの複合的な子育て支援事業の実施を予定しております。</p> <p>更に、取手市内の多くの保育施設では朝7時から夜7時までの時間帯において子どもたちをお預かりする体制も整っているところです。</p> <p>このような観点から、複合公共施設の機能として、送迎保育ステーション機能を配置させる検討は行わない方向としておりますので、ご理解の程お願い申し上げます。</p> <p>ただし、複合公共施設の一部機能として、親子や子ども同士で本と親しむことが可能なスペースや飲食が可能なスペースの配置も検討しており、子育て支援機能の充実という観点も有すると考えております。</p>	
6	<p>パブリックコメント公募の機会を頂けたため、周辺地区含めた本計画への意見を提出させていただきます。</p> <p>① 電車利用者（西口側）の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前のスターバックス、成城石井、ロッテリアは街への期待感が持てて非常に良い。</li> <li>→ どの街にでもあるわけではない行きたくなるお店なので、取手の街に期待を持てます。このような店舗をぜひ増やしてください。</li> <li>・ 一方、帰宅時に食事で利用できる飲食店がロッテリアしかない。</li> <li>→ 仕事後の帰宅時間において、都内からの帰宅時に気軽に利用できる距離の魅力的な飲食店やテイクアウトのお店が無いです。乗り換え時や帰宅前に立ち寄りうと思える飲食店が改札フロアから遠い位置にある為、一度降りる面倒を鑑みても柏や上野などで済ませてしまいます。本当は取手駅で済ませたいです。</li> </ul>	<p>本複合公共施設は、取手駅西口A街区地区の権利者（再開発準備組合）が建設を予定している再開発ビルの一部の床を活用して整備する施設となっております。</p> <p>商業施設などの再開発ビルのテナントに関しましては、再開発準備組合により検討されているため、いただいたご意見につきましては、再開発準備組合に共有させていただきます。</p>	C	
7	<p>② 車利用者（駅への送迎、周辺施設の利用）の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路上駐車が多い。</li> <li>→ 車の待機場所がない為、危険な路上駐車が多すぎます。ウェルネスプラザを利用くださいと記載があるが、そんな遠い場所へ看板だけでは行くわけがないです。もし本当にその運用を浸透させるなら警備を立てるか、警察等へ依頼をして規制を強化すべきです。</li> </ul>	<p>取手駅西口の交通広場の運用などに関するご意見として承りました。いただいたご意見につきましては、担当部署に共有させていただきます。</p>	C	

(書式6)

		<p>・雨天時に雨を凌いで待てる場所がない。(迎車待ち側) →バス側やタクシー側は大きな屋根があるのにも関わらず、車送迎側にはエレベーター前の小さな庇しかありません。明らかにバスやタクシーが優遇され過ぎて使いづらいです。このような状況では知り合いに取手市を薦めるのは愚か、自宅に呼ぶことすら恥ずかしいです。</p>		
8		<p>③ 公共施設利用者の視点 ・現状あまり利用はしていないが、今回図書館が新しくなるため期待しています。 ただし、駐車料金等が発生しないか不安です。 →ウェルネスプラザは駐車場利用時間が短すぎます。数か月ジムの利用をしていたが、駐車料金がジム利用料と同料金発生するので、何にお金を払っているかわからなくなって利用はしなくなりました。 図書館の利用は、活動内容として当然利用時間が長くなる為、図書館利用した市民については駐車料金を取らない資金繰りをしてほしいです。</p>	<p>複合公共施設利用における駐車料金につきましては、現時点では未定ではありますが、今後、他市事例などを参考にしながら、施設利用者の方々に過大な負担が生じないようにの方策を検討していきたいと考えております。</p>	C
9	P30	<p>・運用についての懸念あり。 開架図書館横にブラウジングスペースとしてカフェがあるだけでは、恐らく利用者層の増加は厳しい様に思います。蔦屋書店の様なコンシェルジュや陳列センスが必須かと思えます。また、返却ポストの改札前設置は必須としていただきたいです。</p>	<p>複合公共施設の利用者の増加に繋がるような機能配置や魅力的な図書配架、利便性向上策などにつきましては基本計画策定時におきまして具体的な検討をまいります。</p>	C
10		<p>④ 市民としての期待や懸念 ・今回の開発で取手市の年齢別の人口が、高齢者に寄っている状況を打開してほしい。 →駅回りのサービスが人口に合わせて高齢者寄りになっている印象です。20代～50代程度のお金を持っている現役労働者が市外に移動して買い物しなくてよいと思える店を研究して誘致すべきかと思えます。  ・適切な運営維持、治安維持。 →駅利用者が多い為、様々な人が集まっています。各々が自由に使い過ぎている印象もある為、運営や治安の維持をすべきです。 リボン取手5階自習室では、横になって寝ている成人男性がいて、勉強道具</p>	<p>複合公共施設は幅広い世代の方々に利用していただきたいと考えておりますが、とりわけ学生を中心とした若い世代に多く利用していただきたいと考えております。多くの若い世代の方々が駅前に滞在することで、駅前に活気が生まれるものと考えております。 基本計画策定時におきまして、若い世代からの意見も聴取し、反映しながら検討を進めていきたいと考えております。 複合公共施設には多くの学習スペースを設け、学生などが勉強しやすい環境の整備を考えております。 引き続き、茨城の玄関口にふさわしい、活気のあるまちづくりを進めてまいります。</p>	C

		<p>を持ってきていたが、席がなく帰っていく学生を見たことがあります。また、駅前ベンチでは数人でお酒を飲んでいる外国人がよくいる印象です。いずれも良識ある市民に対して悪影響です。新施設含めて改善をお願いします。</p> <p>気になる点ばかり、様々記載しておりますが、買って終わり、食べて終わり、などの面積が限られた都内の店舗とは違う運用ができるポテンシャルを持っているはずですので、地方の道の駅等の素晴らしい事例を参考に、茨城の玄関口として活気ある駅・街づくりをお願いいたします。</p>		
1 1		<p>構想の基本方針が初めて市民に公表されたのは昨年3月15日の広報とりで。そこには取手図書館の移転・廃止が決定したかの如くの内容が含まれていた。基本構想(案)が示されるまで、基本構想(案)について、教育委員会での公式会議での報告もなく、図書館や図書館協議会での検討された経過もないことが明らかになった。都市計画決定案についての説明会や公聴会も行われたが、地権者の合意を得られず都市計画決定は停止・見直しに追い込まれた。再開発事業への地権者の不同意は、図書館等公共施設導入への市民の合意形成も図られず、所管の教育委員会・図書館での検討も行われないう等、トップダウンの計画推進が大きく影響していることは否定できません。これらの検証もなく変更前と同様の都市計画決定手続きを進めることは、再び失敗の繰り返しです。</p> <p>再開発に導入予定の図書館等複合公共施設は、施設規模でも財政規模でも変更計画で公共の比重はさらに拡大、まさに公共が支える再開発事業の実態を示しています。基本構想(案)は当然、都市計画決定手続き前に、所管する教育委員会・図書館、および市民のニーズを最大限反映させたものとして提示すべきものです。整備構想(案)の検討・策定過程は、教育委員会関係者など図書館の専門性を否定し教育委員会の権限をも侵す極めて不当・不法なものです。図書館の目的・必要性からスタートし所管する教育委員会のもとに専門家と図書館ボランティアの英知を集め検討されるべきでした。それらの検討を抜きに、駅前に「賑</p>	<p>取手駅西口に図書館を核とした複合公共施設を整備する方針や本基本構想(案)の策定にあたりましては、教育行政を行う教育委員会の専門的な見地からの意見を聴取・反映しつつ慎重に検討を進めてまいりました。また、A街区地区における再開発事業の都市計画決定手続きにおきましては、準備組合(地権者の皆さま)の全会一致の合意のもと手続きを進めております。</p> <p>複合公共施設における施設機能などの具体的な検討につきましては、今後予定している複合公共施設整備に関する基本計画策定時に行うこととなります。基本計画策定時には、市民アンケートやワークショップなど、市民の皆さんのご意見を伺い、教育委員会などの関係機関と引き続き協議しながら、より良い施設となるよう検討してまいります。</p> <p>駅前に図書館機能を中心とした複合公共施設を整備することで、取手駅周辺地区への来街者数を増やし、駅周辺地区の活性化や賑わいが創出され、市民の教育と文化の発展に寄与する役割がより一層、充実・強化されるものと考えており、市にとっても非常に大きな意義があるものと考えております。</p> <p>今後の図書館全体の考え方については、いただいたご意見を関係部署に共有させていただき、引き続きより良い施設となるよう協議・検討を進めてまいります。</p>	D

		<p>わい発出」を期待して図書館を活用すること自体に誤りです。取手市の図書館構想についての検討も行わず、「民間再開発事業を支えるための役割で」図書館を移転・廃止の方針決定が教育委員会を抜きに行われるなどありません。</p> <p>取手図書館は多くのボランティア等市民参加によって支えられています。公共施設の整備は、市民ニーズに基づき計画を練り上げるべきです。従うべきルールを怠ったこれらの経緯について反省し、図書館・図書館協議会等、専門家と所管する教育委員会を主に、①市図書館全体の図書館構想（行政計画）策定。②図書館全体の構想策定の中で、現取手図書館の改修・建て替え。③A街区再開発事業への公共施設導入は中止。</p> <p>現取手図書館が、市民会館・福祉会館と合わせ文化・教育施設とともに利根川のほとりに立地する条件を生かし取手図書館の中核施設としてのさらなる発展に期待します。</p>		
1 2		<p>市の標記の基本構想（案）に対し、以下の通り意見を提出致します。</p> <p>この構想の原案は昨年3月15日付の市報で、突然、あたかも決定したかのように広報されました。市民にも、市議会にも、図書館関係者にすら、事前には知らされず、その案以外の提案や、その案に対する議論の余地が全くありませんでした。その後、形式的には説明会、公聴会、パブリックコメントの募集などが行われましたが、今回の基本構想（案）に、そこでの意見が反映された形跡はありません。計画区域が狭まり全体がグレードダウンしたにも関わらず総工費が増えただけの印象です。市民は宛われたメニューを是認することだけが求められている、と言う図式も変わっていません。構想の内容はさて置いても、そのやり方もまた不適切と考えます。</p>	<p>取手駅西口に図書館を核とした複合公共施設を整備する方針や本基本構想（案）の策定にあたりましては、教育行政を行う教育委員会の専門的な見地からの意見を聴取・反映しつつ慎重に検討を進めてまいりました。</p> <p>基本構想の内容を具体的にしていく基本計画策定時におきましては、市民アンケートやワークショップなど、市民の皆さんのご意見をしっかりと伺いながら、引き続き検討を進めてまいります。</p>	D
1 3		<p>基本構想（案）について、私が最大の問題と考えるのはタワーマンション（以下タワマンと略す）の建設です。市はこの再開発を民間の事業と言いなしていますが、「市が決定権者」である都市計画と一体であり、市が構想（案）を提示し、最終的に市が影響を受ける事業でもあります。市の事業として意見を受けるべきです。</p>	<p>市の持続的な発展を図るために、魅力的な都市空間を整備し、若い世代の転入者を増やすことが重要であると考えています。また、A街区再開発ビルの整備後も、複合公共施設を中心として周辺地域を巻き込んだ取組みやイベント開催などのソフト事業を展開し、継続したにぎわいの創出や地域の活性化を図っていき</p>	D

	<p>タワマンは「土地の高度利用」を謳い、限られた土地に多数の居住者が住む建物です。各住戸は私有財産であり、住人は細分した敷地を区分所有します。しかし、「建物は何れ耐用年数が尽きて建替えなり解体なりが必要になる、解体や建替えは区分所有者たちが自腹で行わなければならない、耐用年数が尽きたタワマンの区分所有者の多くは高齢化しておりその費用負担に耐えられない、その結果そのタワマンは建て替えも解体もできないまま廃墟化する」、こんなシナリオが識者から指摘されています。実際、計画中のタワマンには建替え用の敷地も見当たらず、今回の計画見直しで敷地面積は替わらないまま戸数が200戸から250戸に増えタワマンとしてのレベルもグレードダウンしており、一代限りの集合住宅となる可能性が濃厚です。</p> <p>加えて日本では少子化が進行しています。市の構想(案)にあるタワマンが耐用年数を迎える頃、取手市も人口が減少し、経済規模は縮小し、タワマンを維持する力がなくなっている可能性が濃厚です。駅前の一等地に聳える廃墟化したタワマンは将来の取手市・取手市民、私たちの子・孫たちの大きな負債になると思われまます。市の計画は、後の事を考えない近視眼的な計画であり、中長期的には取手市の足を引っ張る、持続不可能な計画と言わざるを得ません。将来の取手市に対して無責任と考えます。</p> <p>駅前を取手市の中心の一つであり、公共性の高い場所です。その様な場所は時代によって役割も変わり、建物やインフラも老朽化するため、その時々々の要請に応じて更新を繰り返し、「持続可能」な形で使い回していく場所と考えます。将来的に再利用が困難な巨大建物を建てて塩漬けにして良い場所ではありません。現在の計画は撤回し、練り直すべきと考えます。</p>	<p>いと考えます。A街区において再開発事業を実施することは、権利者の皆さんのみならず、市にとっても非常に大きな意義があるものと考えているため、市としては、権利者の皆さんの意向を受けて、準備組合に対して必要な助言や援助などを行っているところであり、今後の再開発組合の設立後も、こうした助言、援助などを引き続き行っていく予定です。</p>	
<p>14</p>	<p>再開発ビルの床を買って公共施設を入れる、と言う市の構想については次のような問題を指摘できます。</p> <p>1) タワマンが建物の主体となる総工費187億円の民間開発に、補助金45億円(市負担は半額)と床購入費+施設整備費44~49億円、市負の担額だけでも70億円に達します。「お金がない」として公共施設費を27%削減しながら、この額の</p>	<p>事業の推進にあたっては、国庫補助金を有効に活用し、市の財政負担が極力軽減するよう留意して事業を進めていきたいと考えております。</p> <p>新規に整備を予定している公共施設は、広い閲覧・学習スペースやカフェなども備えた、図書館を核とした複合施設を想定しており、吹き抜けなどを設けたゆとりのある魅力あ</p>	<p>D</p>

		<p>公共投資は適正でしょうか。お金はより多くの市民の福祉に使うべきではありませんか。この投資により更なる住民サービスの低下が起きるであろうことを憂慮します。</p> <p>2) 非住宅棟に床を買うことにより、市は再開発ビルの区分所有者となり、その管理の責任の一端を負います。ビルが経営に行き詰まれば、市は建物の「廃墟化」の前にもその後始末を強いられることになるでしょう。</p> <p>3) そもそもなぜ今、駅前に公共施設が必要なのでしょう。公共施設で「にぎわい」を呼べるのでしょうか、公共施設が必要だとしたらなぜそれが新築の再開発ビルでなければならないのでしょうか。近隣には空きフロアを抱えたりボンとりでビルやアトレがあり、公共施設を整備する余地は十分あると思われまます。</p> <p>A街区再開発が「民間の事業」であるならば、公共施設整備をやめ、あとは「民間活力」に任せるのが筋でしょう。逆に、駅前に公共施設を整備するのなら、市がA街区全体を長期に借地し、建物群と空地（公園などの形で維持）を適宜配置し、持続可能な形で使い回していく、と言う選択もあるはずで。市の構想は中途半端と考えます。</p>	<p>る空間づくりを目指しております。</p> <p>こうした現代的な公共施設を新規に整備するためには、空間デザインや施設、諸室の配置、動線などの多くの点を、再開発ビル全体の設計段階から一体的に考慮し、調整して進めていくことが必要となると考えております。</p> <p>また、長期的な将来を見据えた施設の耐久性や、現在想定している施設規模や構造などを総合的に勘案した結果、新規の再開発ビル内に整備することが現時点では望ましいと考えています。</p>	
15		<p>次に、その公共施設の「核」がなぜ図書館なのでしょう。市の構想では図書館は「にぎわい作り」の「核」のようです。しかし図書館は静的な社会教育機関であり、図書館が生み出す「にぎわい」は、商業施設や娯楽施設でのような繁華な「にぎわい」ではありません。市が言う「にぎわい」が繁華な「にぎわい」だとすれば、それはお門違いです。図書館はそもそも集客施設ではなく、「にぎわい作り」への「利用」にはそぐわない施設と考えます。「広報とりで」11月1日号が主張するように、図書館が「誰もが楽しめる読書空間」を演出する場なのであれば、騒々しいイベントに頼って「にぎわい作り」を求めるべきではありません。イベントで「にぎわい作り」を目論むのであれば、図書館ではなく商業施設か娯楽施設かイベント会場を入れるべきです。</p>	<p>駅前への図書館機能整備の考え方は、取手駅西口地区に不足している機能を充足する施設を整備するというものです。図書館は社会教育施設であることは認識しておりますが、図書館の整備により取手駅周辺地区への来街者数を増やし、駅周辺地区の活性化や賑わい創出を図り、市全体の活性化と将来的に持続可能なまちづくりに繋がると考えているところです。</p>	D
16	P20	<p>また、なぜ既存のとりで図書館を「廃止」するのでしょうか。私は駅前に図書室を置くことに反対ではありませんが、</p>	<p>ご意見のとおり、現在の取手図書館は、開館から45年以上が経過し、老朽化が進んでいる状況です。また</p>	D

	<p>それはリボンとりでビルやアトレの空きフロアを利用すれば良いことです。</p> <p>取手図書館が老朽化していることは事実です。しかし、市の構想通り再開発ビル内に図書館を作ったとして、その供用開始は数年、悪くすれば10年先になるでしょう。その間「老朽化した」取手図書館は放っておくつもりでしょうか。むしろ取手図書館に然るべき手を入れて延命を図り、その間に、たとえばリボンとりでビルに図書室を整備するなどして蔵書の分散避難先を手当てし、取手図書館の建て替えに備えるのが合理的で安上がりなのではないでしょうか。</p> <p>公立図書館は文教施設であり、風俗営業法で近隣にパチンコ店を含む風俗営業店の出店が規制されています。リボンとりでビルにはパチンコ店が入っており、市の複合公共施設はその近隣に整備されることとなります。取手図書館を廃止するならば、取手市図書館の本館がそこに移転してくる事となります。図書館が後からパチンコ店近隣に移転してくる事は法的には問題ないのだそうですが、風俗営業法の理念には反します。「取手市では図書館をパチンコ店の近所に持ってきた」となれば、市の文化行政の質やレベルを問われ、取手の「まち」としてのイメージを損なうことを危惧します。図書館の本館は今の取手図書館のまま残し、駅前に図書館を整備するなら「分館」や「図書室」の形にする方が、対外的にも、望ましいと考えます。</p> <p>取手図書館の老朽化については、この再開発構想が出てくる前までは喫緊の問題とされてはいなかったと聞いています。今「老朽化」が喧伝されているのは「為にする」議論の様に聞こえます。構想(案)には図書館利用者にアンケートを取った結果が載っており、建替えや駅前への移転を要望する意見が多数あるかのように利用されています。しかしそこには「今のままで良い」と言う意見が載っていません。アンケート期間内の推計利用者数に対して回答数は僅かで、回答内容から見て「今のままで良い」と考える人が回答しようと思うアンケートではなかったのかも知れません。実際、私共が行った聞き取りでは「今のままが良い」「駅前に移転されては困る」などの意見が半数を超えていました。また、</p>	<p>閲覧・学習スペースの広さも十分ではなく、バリアフリー化も不十分でハード面に課題を抱えております。</p> <p>こうした観点から新たに駅前に図書館機能を整備し、既存の施設に関しては廃止をする方針としているところです。なお、既存の建物や土地の利用方法につきましては、今後検討を進めてまいります。</p> <p>令和6年1月に実施した取手図書館利用者のアンケートにつきましては、428名の方から回答が寄せられました。この中には、広い図書館が欲しい、駅前に図書館があると良い、居心地の良い空間が欲しいといった様々なご意見が寄せられております。もちろん、市民の皆さんのご意見を聴取する手段として、利用者アンケートだけで十分だとは考えておりません。複合公共施設の基本計画の策定時におきましては、市民アンケートに加えて、住民説明会やワークショップなどの多様な手段で市民意見を聴取し、基本計画に反映させていくことにより、市民ニーズに合致した魅力的で使い勝手の良い施設を整備していきたいと考えております。</p>
--	---	---

		<p>「図書館の本は近所の公民館で受取・返却できる。交通費をかけてまで駅前には行かない。そんなお金があるのなら地域の公民館の図書室を拡充してほしい」との意見も聞いています。少なくとも図書館移設が「多くの市民の切実な要望」とは言えません。また、任意・見限定のアンケート結果を行政判断の根拠と言いなすのは「印象操作」に通じ、不適切です。</p> <p>以上、取手図書館の廃止・移設は市民の切実な要望とも言えず、挿して便利になるわけでもなく、取手市の評判を貶める事にもなりかねません。これを市の一存で巨額の税金を投じて行おうとする事には大きな疑問を感じます。</p>		
17	P27	<p>市はこの「複合公共施設」を指定管理にしていますが、施設内に図書館を設置する場合、図書館は市直営とし、指定管理にしないことを求めます。守谷市はかつて中央図書館に指定管理を導入し、混乱の末、市直営に戻しました。取手市ではその経験に学び、現在「図書館には指定管理を導入しない」という申し合わせがあります。</p> <p>図書館は無料の貸本屋や娯楽施設ではなく、地域の情報センター、学校教育や市民の生涯教育を支援する社会教育機関であり、そのサービスの一環として資料としての本を貸し出しています。守谷中央図書館では指定管理にした結果、社会教育機関としての機能は言うまでもなく、窓口業務まで混乱したと聞きます。受託業者は3年なり5年なりの有期契約で、儲けが出なければ撤退できます。本の配架をでたらめにしたり、貴重な郷土の資料を独断で廃棄した業者もあります。資料の永続的な維持管理や公的な学校教育、社会教育の支援を任せられるような責任ある存在でないことは初めから明らかです。私は図書館の運営を指定管理に委ねることに反対です。</p> <p>開館日や開館時間で指定管理を評価する向きもありますが、守谷中央図書館は市直営で休館月一回、開館時間9:00~19:00を実現しています。やればできることです。</p>	<p>指定管理の導入によって、管理運営が効率的になり、管理経費の縮減に繋がるのが期待できることに加え、民間企業の持つノウハウを積極的に活用することで、開館時間の延長や魅力的なコンテンツの提供、様々なイベント開催など、市民ニーズに対応したきめ細かなサービス提供が期待できると考えております。</p> <p>指定管理の具体的な進め方は、今後、検討していく事項ではありますが、複合公共施設のどの部分を指定管理者に任せるのか（施設全体なのか部分的なのか）、指定管理者に任せる業務内容はどの範囲か、指定管理者にどういった運営を求めるのかといった、指定管理の方法に関する点は様々な工夫の余地があると考えております。</p>	D
18	P30	<p>複合公共施設に図書館を入れるとしても、その設計や利用の理念には大きな問題があります。図書館の館内には静粛性を求めます。談話室やリファレンスルー</p>	<p>複合公共施設の機能配置につきましては、今後予定している基本計画策定時に具体的な検討を行います。が、賑やかで動きのある「動」のフ</p>	D

		ムなど、会話ができるスペースは別途用意し、静謐な環境で資料と向き合うことのできるスペースを確保すべきです。市の構想では、複合公共施設には多目的ラウンジや音楽スタジオを併設し、また、ペDESTリアンデッキやウェルネスプラザのイベント広場でのイベントと連携し、「にぎわい作り」として利用する計画があるようです。それらからの騒音（たとえ音楽であっても不快に思う人は沢山います）が館内に拡散するような設計は止めて頂きたい。吹き抜けの設置など以ての外です。	ロアや静かに過ごせる「静」のフロアを生み出し、様々な方が居心地よく過ごせる機能配置を基本的な考え方としております。	
19	P11～ P13	<p>市の構想では、図書館利用者のメインターゲットの一員として「取手駅を通勤・通学で利用する」若者を挙げており、そのこと自体は宜しいと考えます。しかし彼らは終業後に駅を使って往き来する人たちであり、彼らを取り込めるのは平日の夕刻にほぼ限られます。また、一度に利用できる人数にも限りがあります。若者重視が小児・児童や年配者を排除するものであってはなりません。図書館の利用者として、平日日中は年配者が多く、日曜休日は小児・児童が目につきます。若者を重視する余り年配者や小児・児童が利用しにくくなれば、社会教育施設としての機能は劣化し、利用者数も減少するでしょう。マンガ、ライトノベル、学習参考書ばかりが並び、若者が「飲み物を片手に」ベチャベチャ喋っているばかり、と言う図書館は願い下げです。</p> <p>繰り返しになりますが、図書館は、安心して「楽しめる読書空間」であるべきです。</p> <p>以上、図書館に関する意見が長くなりましたが、私が最も問題と考えるところは、この計画が持続不可能であり、将来の取手市に禍根を残す無責任な計画だということです。計画は練り直すべきと考えます。</p>	<p>複合公共施設の利用者のターゲット層の一つとして、学生を中心とした若い世代に多く利用していただきたいと考えておりますが、公共交通利用など様々な目的を持って取手駅や取手駅周辺地区を訪れる方に加えて、取手駅周辺地区を訪れる機会が少なかった方で複合公共施設利用を目的に訪れる新規利用者など、幅広く様々な方に利用していただきたいと考えております。</p> <p>基本計画策定時におきましては、市民アンケートやワークショップなど、市民の皆さんのご意見を伺い、様々な世代の方にとって居心地の良い施設となるよう検討を進めてまいります。</p>	D

※意見公募は政策等の賛否を問うものではありません。意見の内容に着目し、これを考慮した市（実施機関）の考え方を掲載しています